

# お客様からのコメント

たくさんのコメント  
ありがとうございます  
島谷

ヤフーオークションで商品を購入させていただいたご縁で拝読しております。通販で購入しているため、会社の方のお顔やお人柄、地域でのご活動などが窺えるのは楽しいなと思えました。単なる会社の宣伝チラシだろう、と思っていたのですが「江戸時代の兜」についてや抜刀体験なども面白く拝読しました。タイトル横に伊達政宗公が使われているところも良かったです。

(ニックネーム：ルンバが欲しい者さん)

ありがとうございます！！「大名をもっと知ってもらいたい！」という気持ちでニュースレターを作っています。貴方様の不安を少しでも払拭でき、為になるような、内容作りを今後していきますので、どうぞ引き続きお楽しみください。

島谷さんの「語ります」を毎回楽しみにしています。申し訳無いですが、何処かに穴は無いかと粗探しして居ますが、全く有りませんでした。今回で兜が終わるとの事次回は何か楽しみです。

(ニックネーム：麟太郎さん)

麟太郎さんありがとうございます！しっかり読み込んで頂けたこと、とても嬉しく思います！そして、満足して頂ける記事になり良かったです。次回も満足して頂けるような記事作りをしていきます。どうぞ、楽しみにしててください。

小学校での歴史の授業がとてもよい取り組みだと感じました。実際に鎧や兜に触れることで、社会科の学習に役立ちます。武器も甲冑もずっしりと重いので、これを着て戦う人の苦労がわかります。細かな装飾や札の繋ぎ方を見ることで、職人の方の高度な技術がわかります。安土桃山時代の兜の立物のモチーフを知ること、武将たちの合戦にかけける思いを知ることができます。きっとお子さんたちにとって有意義で楽しい時間だったと思います。このような取り組みが、全国に広がってほしいです。これからも続けていってください。

(ニックネーム：ごんたさん)

ごんたさん、貴重なコメントありがとうございます！はい！子供達がとても楽しそうにしている姿が今も思い浮かびます。実際に触れることで、歴史をもっと知ってもらうきっかけになったと思います。日本のよき文化、歴史をこれからもどんどん伝えていけたらと思っています。

兜の変遷の内容が良かった。前回の話はどうすれば読めますか？

あります！！  
<https://daimyou.com/yamato.html>  
今までのニュースレターを全て見ることができます。ぜひ楽しんでください。



# 届けますっ！大和魂 2023年4月 Vol.53

**経営理念** 有限会社大名は「届けますっ！大和魂」を合言葉に日本の歴史、古美術を発信し、貴方(お客様)の趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します

こんにちは。島谷貴子です。

春と言えば、別れの季節でもあり、新しい門出の季節でもありますね。今年の3月に次女が小学校を卒業し、中学校へ入学します。娘から、「お願いだから目立たんように、痩せてよ」との事でしたが、その思いに残念ながら応えられずでした。あと数か月あったらと。



## なぜ、3月に卒業で4月に入学なのでしょう？

卒業式は、試験終了者に対して卒業証書を授与したことから始まりました。そして現在のように儀式として定着したのは、明治初期からだそうです。大学が出来始めると、海外の仕組みに習い「8月卒業、9月入学」になっていきました。1886年に国の「会計年度」が4月～3月となり、それに併せて学校制度も今と同じく3月卒業、4月入学になっていったそうです。卒業式の式典では、学校における教育課程を全て修了したことを認定し、卒業証書を授与することで門出を祝うこと。卒業生が教諭・教授や両親への感謝を伝え、節目をつけることが目的とされています。ちなみに各学校で修了ごとに祝う儀式(式典)は、日本の習慣だそうです。

小学校入学当初は、学校に行きたくない毎日大泣きで大変でしたが、6年間の中で、自分で出来ることを探し、考えながら、成長していきました。中学生になる準備も、今はばっちりです。母として、娘が挑戦したいことを全力で応援し、盛り上げていこうと思います。そして来年は、三女の卒業式。来年こそは・・・



卒園式にて



小学校入学



小学校卒業

卒業式

## 新春 お年玉プレゼント

**問題** 「1枚の紙」を切ったり破ったりせずに「10枚の紙」にするにはどうしたら良いでしょう？  
**答えは「両替」でした**

**当選者発表**

**4等賞**

前後2カメラ  
ドライブレコーダー

『NOBU』様

**12等賞**

防水  
スピーカー

『ルンバが欲しい者』様

中堀

今号の大和魂はいかがでしたか？ 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せください。お待ちしております。 件名：ニュースレター返信と入力して送信して下さい。

最新情報はホームページ <https://daimyou.com/>  
 有限会社 **大名** 広島県尾道市栗原町2-1 3F Eメール [sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp](mailto:sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp)  
 TEL.0848-29-3936 FAX.0848-29-3937

こんにちは。中堀明美です！

今号からは「胴」について語らせて頂きます。



語ります

# 大和魂

## 胴の変遷

胴とは、胸から腰までの胴体を  
守る為の防具で、弥生時代から始まりました。

弥生・古墳時代

短甲 挂甲

↑今号はこちら

平安～室町時代

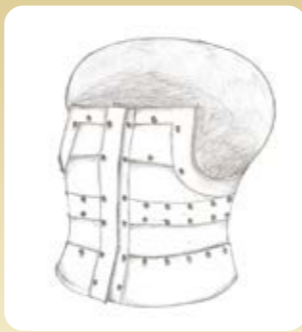
胴丸・腹巻・腹当

戦国時代～

当世具足の胴

## 短甲

胴を守る丈の短い甲のことで、「みじかよろい」とも呼ばれます。日本独自の形式をしており、薄く叩いて延ばした鉄板が用いられています。実戦で使用する以外にも、死者を埋葬する際にも災いから身を守るための物として、遺体の近くに埋葬されていたと言われています。



## 弥生時代

最も古いと言われている物が、木製の短甲です。

漆塗が施され、幾何学模様の彫刻が特徴。



## 古墳時代

鉄製の短甲が作られるようになりました。三角板や縦板、横板で塞ぎ、革ひもで綴じるか鉤留めにして形作ります。この時代は鉄が大変貴重であった為、身分の高い人物しか身に着けることができなかつたと考えられています。



## 挂甲

中国で発展し、日本へ伝来されました。

古墳時代の中期から奈良時代にかけて登場します。鉄や革などで作られた小さな細長い板状の「小札」を革紐でとじ合わせた物。短甲よりも柔軟性を持たせたことで、より動きやすく機動性にも優れていました。草摺も作られ、下半身も守られるようになりました。

## 胴丸式挂甲

丈が長く、胴全体を巻いて体の前で引き合わせる。腰部分の「腰札」と呼ばれる細長い板は他の部分よりも長くなっており、中央部分を内側に曲げてあります。ここに帯を通して締め、胴に密着させることで、重さを腰の部分でも受け止めることができ、肩への負担を軽減していました。



## 補襦式挂甲

胴の前と胴の後ろを両脇で合わせた鎧の形式。胴体の周囲を覆うのでくびれがない形。小札を紐でとじて組み立てたため、動きが楽で騎乗に適しています。



平安時代以降は日本独自の進化をしていきました。大部分を占める胴は、内臓を守る役割を果たしていた部位です。今後どのように変化していくのか、次号では「胴丸」について語らせて頂きます♪



ハナエモンの

# タイムスリップ!



中国三大謀将の1人 謀聖

## 尼子経久

あまご つねひさ

1458-1541年

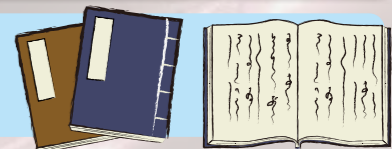


今号は、  
中国地方の三大謀将の1人  
この方にタァ～イムスリップ!

## 転落からの戦国大名へ

経久は出雲守護代を務める<sup>いずものくに</sup>尼子清定の長男として出雲国(島根県東部)に生まれます。16歳で人質として、主君<sup>きょうごくまさつね</sup>京極政経の京都屋敷に送られます。そこで高い教養を学び、成長した<sup>いずものくに</sup>経久は5年後、出雲国に戻ってきます。戻ってからは幕府に支払うべき税金を断るなど、独立の気配を強くしていきます。しかし、その行動への反発を受け、守護代の地位を奪われてしまいます。まもなくして、権力基盤を奪い返した<sup>いずものくに</sup>経久は自身の地位を奪った三沢氏との戦に向かっていきます。

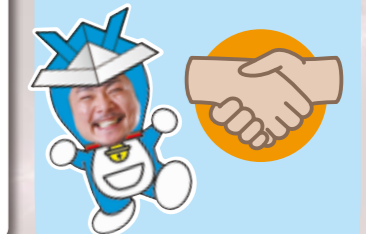
後世に書かれている軍記物には、守護を務める武士達の民を省みない悪政に対しての義憤から幕府に逆らい、民の為になる独立した体制を作ろうとしていたそうです。



## 謀聖の2年がかりの謀略

出雲一国を手にする為に倒さないといけなかつたのは三沢氏でした。戦力の差もなく、厳しい戦いになると考えた<sup>いずものくに</sup>経久は埋伏の毒という作戦で、腹心の<sup>いずものくに</sup>山中勤兵衛を三沢氏の元に出します。<sup>いずものくに</sup>山中勤兵衛は<sup>いずものくに</sup>経久への不満を三沢氏に伝え、三沢氏の元で2年かけて信用を得ていきます。信用を得ると、<sup>いずものくに</sup>山中勤兵衛は、<sup>いずものくに</sup>経久の居城の門を中から開き、急襲する作戦を提案し、三沢氏の軍団を移動させることに成功させます。門が開かれると、そこにいたのは甲冑をまとい、武器を手にした大量の<sup>いずものくに</sup>尼子軍でした。突然の登場に混乱した三沢軍を徹底的に攻撃し、戦力を大きく削ったことで倒すことが出来ました。

絶対的な信頼関係で結ばれていた<sup>いずものくに</sup>経久と<sup>いずものくに</sup>勤兵衛。ちなみに、<sup>いずものくに</sup>勤兵衛の孫が<sup>いずものくに</sup>尼子家再興に命を懸けた<sup>やまなかしかのすけ</sup>山中鹿介です。



## 息子の死と裏切り

その後、<sup>いわみのくに</sup>石見国(島根県西部)、<sup>ほうきのくに</sup>伯耆国(鳥取県中部、西部)と<sup>びんごのくに</sup>備後国(広島県東部)、<sup>びつちゅうのくに</sup>備中国(岡山県西部)、<sup>みまさかのくに</sup>美作国(岡山県東北部)の一部まで<sup>いずものくに</sup>経久一代で、勢力範囲を広げていった<sup>いずものくに</sup>経久。順調に思えた矢先、実も花もある勇将と称えられ、次代を託すのに相応しい長男<sup>まさひさ</sup>政久が戦死する悲劇に合います。更には出雲西部で大きな勢力を誇っていた<sup>おきひさ</sup>塩冶氏の養子に出していた三男<sup>おきひさ</sup>興久が大規模な反乱を起こします。平定するのに4年もかかる程、大掛かりでした。敗れた<sup>おきひさ</sup>興久は自害し、三男までも失ってしまいます。



この乱から<sup>いずものくに</sup>尼子家の権力基盤の弱さを補う為に、後を継いだ孫の<sup>はるひさ</sup>晴久が<sup>いずものくに</sup>尼子宗家への権力集中させるきっかけとなっていきます。十一ヶ国まで勢力範囲を広げていくほど優秀でしたが、47歳で急死し、そこから<sup>いずものくに</sup>尼子氏滅亡のスタートが始まっていきます。次号もお楽しみに。